



弁理士 伊藤高英さん

### ◎知的財産を通じて社会の発展を支える

伊藤さんが弁理士という職業と出会ったのは中学生の頃だったそうです。

「父が町工場を経営していて、特許出願の図面を描く手伝いなどをしていました。そのときに弁理士という仕事を知り、興味を持つようになりました」

工学部機械科の学生だった伊藤さんは就職活動の際、「大企業より個人でできる仕事が向いている」と考え、大学の先生の紹介で弁理士事務所に就職しました。ここで毎日の仕事の合間に資格取得に向けた勉強に取り組み、6年後に試験に合格。その後、都内の大手弁理士事務所に所属し、知り合った中尾弁理士とともに昭和60年に現在の事務所を設立しました。

「新しい発明やアイデアを創造する段階、権利化し保護する段階、それらを活用する段階。こうした知的財産の創造と活用を巡る3つのプロセスすべてに携わるのが弁理士の仕事です」

アイデアを生み出す段階では、弁理士は知的財産のプロとして適切なアドバイスを送ることで新しい技術の開発をサポートします。次に、これらのアイデアを特許や商標などとして正式に権利化し、法律のもとできちんと守られるような環境をつくります。知的財産を保護するしきみは、アイデアを創造した人の権利を守るとともに、知的財産の正しい活用を促すことにより産業や社会の発展を支えているのだと伊藤弁理士は言います。

### ◎自分の仕事を自ら開拓できる職業

「私が弁理士になって25年以上経ちますが、この間に仕事を巡る状況も変化してきました。まず知的財産全般に関しては、近年は量より質を重視する傾向にあります。また外国から日本

知的財産の創造と保護、活用のさまざまな場面で活躍する弁理士。「知的財産立国」を目指すわが国において、その役割は今後さらに重要なと考えられています。児童生徒の「仕事選び」でも弁理士という職業は魅力的な選択肢の一つです。そこで今回は、その仕事内容や将来弁理士を目指すうえでのポイントなどについて、中尾・伊藤特許事務所（東京・千代田区）の伊藤高英弁理士に聞きました。

への特許出願が増えていることも大きな変化で、今後は弁理士の仕事も海外とのつながりがますます深くなっていくと思います」

こうした変化を踏まながら、将来弁理士を目指す子どもたちへのアドバイスを求めるとき、「自分なりの得意分野をつくっておくと有利。大学でしっかり勉強して海外文献が読めるレベルになっていれば、外国に事務所を開いたり、海外からの特許出願の仕事を受けたりするときの強みになります」という答えが返っていました。

一口に「特許」と言っても、申請する企業は自動車や電機、バイオテクノロジー、建築など多岐にわたり、その技術内容は高度です。弁理士は一人ひとりが得意分野を持ち、大学などで学んだ専門知識を生かしながら対応しているそうです。

「発明は一件ごとに違うので、いつも新しい情報に触れられるのがこの仕事の楽しさ。自分が興味を持って学んできた専門分野の知識と経験も生かせますし、何より弁理士には定年がないので自由に働く。自分の仕事の中身を自ら開拓していく魅力的な職業です」

最後に伊藤弁理士は学校現場へのメッセージとして、「知的財産を生み出せるのは人間だけであり、そこから生まれた価値あるアイデアを守っているのが知的財産権制度だということを子どもたちにもきちんと伝えてほしい」と話してくれました。



書類の申請はインターネットで行なう時代

### ～弁理士 出張授業のご案内～

**現役弁理士がゲストティーチャーとなり、  
知的財産権や進路指導について楽しく教えます。**

◎問い合わせ先 .....

日本教育新聞社 弁理士 出張授業係  
TEL:03-3461-3588 FAX:03-3780-0080  
E-mail : plan@kyoiku-press.co.jp

日本弁理士会では、学校での知的財産権に関する教育活動を支援するため、要望に応じて無料で現役弁理士がゲストティーチャーとして学校を訪問する、出張授業を実施しています。身近な発明品を取りながら知的財産権について学べるほか、弁理士という職業の裏舞台も知ることができる貴重な機会です。総合的な学習の時間や進路指導などで有効に活用できそうです。